寄稿

『総合科学部に行って良かった』？
アンケートに見る卒業生850人の生活と意見

総合科学部は今年の春，第20回目の卒業生を世に送り出した。総勢2,700余人の総科出身者たちは，学生時代をどう振り返り，現在の総科をどう評価しているだろうか。

（この記事は総合科学部自己点検・評価委員会に寄稿していただいたものです）

総合科学部自己点検・評価委員会は，総合科学部同窓会の協力を得て，平成９年１月に学部卒業生全員を対象にした「総合科学部についてのアンケート」を実施した。21世紀社会の需要に応え得る学部への改革・改編案策定に，学部を巣立った人々の視点を取り入れるためである。結果の詳細な分析作業は進行中であるが，ここに概要を報告する。詳細は「総合科学部自己点検・評価報告書」の形で秋以降に刊行される予定である。

●調査の概要

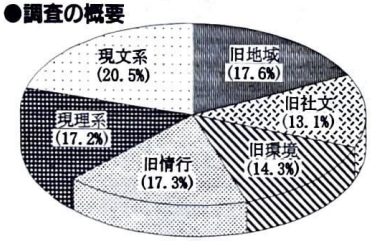

図１．回答者の出身コース

第１回(1978)から第19回(1996)までの学部卒業生2,581名のうち，同窓会名簿に住所が記載されている2,121名に大学院のみの修了生を加えた2,472名にアンケート用紙を郵送した。返送期限は２月10日としたが，本稿では３月10日までに返送された881票のうち学部卒業生分856票について報告する。

回答者の出身コース別内訳を図１に示す。1987年以降の入学生は文系コースと理系コースに集約している。また，入学年度を初期群(1974～80年)289名，中期群(1981～86)247名，および近期群(1987～92年)320名に集約して年代差を検討した。

●なぜ総合科学部に入学したの？

『あなたが入学先に総合科学部を選んだのはどのような理由からですか』の設問に，７項目からいくつでも選んでもらった（図２）。全体として，「従来の専門の枠にとらわれず，さまざまな学問領域を学べると思ったので」を挙げた人が68％と最も多く，「入学してから専門の進路を選ぶまで時間的余裕がある」42％が続く。この項目は初期入学群では36％であったものが，中期と近期では45％に増えている。「総合科学というものに興味をひかれた」26.8％は全体で第３位であるが，入学群別に見ると初期中期群32％から近期群18.8％に減少している。近期群で急増した（23.5％）「その他」には「理転ができる」などの具体例が目立った。総科のセールス・ポイントとして「多様な学問領域を学ぶ機会」がメインであることに変わりないとしても，「総合科学」の魅力は「進路決定の余裕と柔軟性」に代わられつつあるようである。

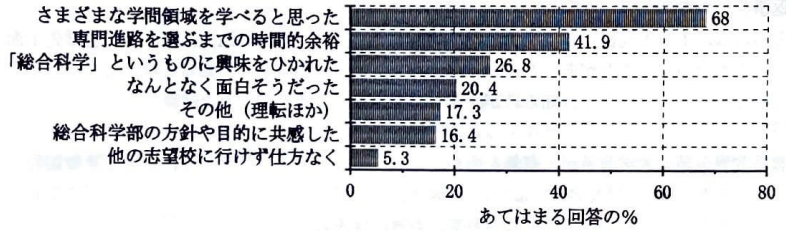

図２．総合科学部を選んだ理由

●総科のイメージは「好き」と「元気」

卒業生が現時点で総合科学部に対してもっているイメージを12対の７点尺度で聞き，さらに対比のために，文系コース出身者には文学部の，理系コース出身者には理学部のイメージの評定を求めた。図３は，イメージが尺度の左右いずれの極にどれくらい近いかを回答者の平均点で示したものであり，総科の特徴の著しい順に尺度項目を配列し直してある。

総科のイメージは「いろいろな学問領域の立場を認め」「多様な視点が共存し」「幅広い知識を身につけようとし」て「元気」で「暖かく」て「好き」ということになろう。対して既成の文学部も理学部も「専門を深めようと」し「個々の学問領域が独自にすすみ」「くたびれた」という共通のイメージをもたれている。

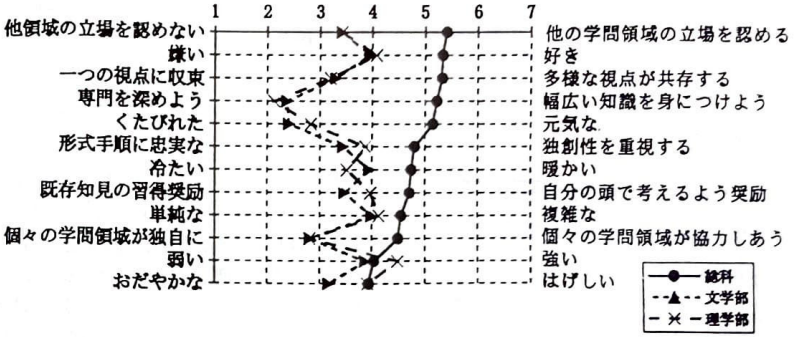

図３．総合科学部と文・理学部のイメージ

●学部の理念と学生生活のキーワード

イメージ測定に用いた動詞形項目６対12個から『学部当局が学部の理念として重視していたと感じる項目』を３個選んでもらった。上位５項目は図４の通り，回答者の85％が「幅広い知識を身につける」を挙げ，さらに「他領域の立場を認める」「多様な視点の共存」を過半数が指摘した。また，形容詞対を含む12対24個から『学部当局はともかくとして，自分の学生生活を最もよく表している』項目を３個選んでもらった。結果は図５に示す。「幅広い知識の習得」は，これを学部の理念と感じた人の71％を含む全体の66％が自分の学生時代のキーワードとして挙げている。キーワードに「元気な」を挙げた人が31％いることが注目される。

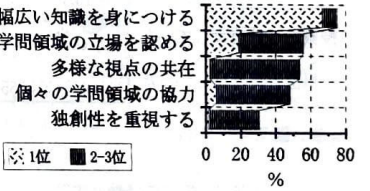

図４．総科当局の学部理念は

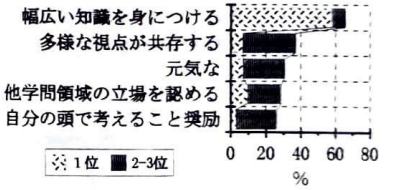

図５．学生生活を表すキーワード

●総合科学部の評価

総合科学部在学中の事柄について12項目にわたる評価を求めた。評価項目は因子分析法によって大まかに【学部の風土】【教官の姿勢】【卒業研究】【授業の構成と内容】の４つの次元に集約することができた。これらの次元別に項目ごとのポジティブな評価とネガティブな評価の割合を図示する。

また，各項目に賛成２点，どちらとも言えない１点，反対０点として換算し，次元ごとの［合計点／項目数×10］を評価点として入学時期別に算出した平均点を図6-5.に示す。

●学部の風土

『総合科学部の全体的な雰囲気』は「活気があった」69.7%，「活気がなかった」4.2%で，残り26.1%が「どちらとも言えない」「忘れた」と答えた。『学生どうしの仲間意識や連帯は』「強く」，『総科出身であることを』「誇らしく思う」人が60%を超えている。年代（入学時期）別に『学部の風土』評価点を見ると，中期群が高く初期群が低い。

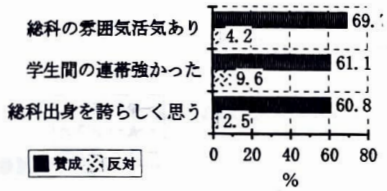

図6-1．学部の風土

●教官の教育姿勢

『教官の教育姿勢は概して』「熱心」とする評価（63%）が「不熱心」(5%）をはるかに上まわる。しかし『総合科学部の理念や理想を追求する意気込みの感じられる教官が』「多かった」と「少なかった」は拮抗している。『教官どうしは概して』「協調」と「対立」が20%程度ずつであるが，回答者の過半数は「どちらとも言えない」としている。この次元は年代順に評価が低下する傾向を示している。

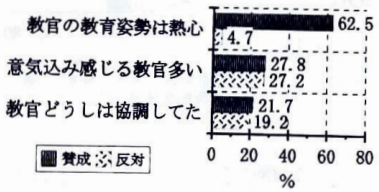

図6-2．教官の教育姿勢

●卒業研究・卒論の功罪

『卒業研究』を「厳しかった」とする人は全体の33.9%，「どちらとも言えない」が半数であるが，「厳しかった」を文系理系別に見ると，文系27.7%対理系40.1%と隔たっている。『卒業論文を書いた経験はその後の自分のために何らかの面で』「役に立った」は文系の58%，理系の67%，「役立たない」は文系の16.7%，理系の10.9%である。理系出身者の方が文系より卒論経験を高く評価している。年代別では最近卒業した人々が相対的に卒論の効用を認めているようである。

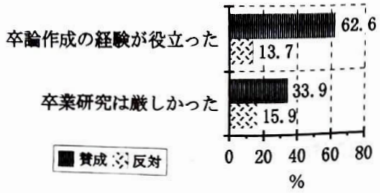

図6-3．卒業研究・卒論の功罪

●授業の種類と内容

『聴講できる授業科目の種類』は「豊富だった」73.3%と最も好ましく評価されている。『自分のコースの授業だけでなく，他のコースの専門授業を「積極的に聴講した」のは文系理系とも約半数である。しかし『授業の内容は』「どちらとも言えない」が60%弱を占め，「充実したものが多かった」と「物足りないものが多かった」がほぼ拮抗している。『単位の修得は』「楽だった」が過半数である。「厳しかった」を好意的評価だとすれば，４つの評価次元のうちで授業に関する次元の評価が最も低いことになる。初期群に比べて中期・近期群の評価はおおむね上昇しているが，『教官の態度』次元の評価は８コース制になってからの入学者群で低くなっている。

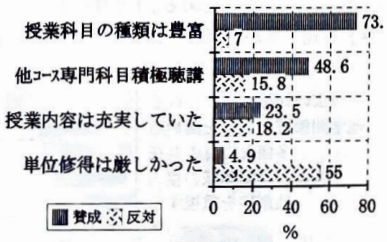

図6-4．授業の種類と内容

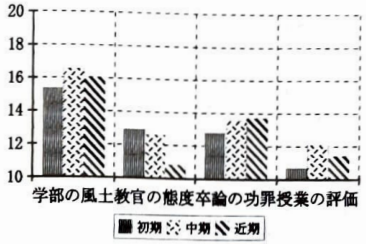

図6-5．総科の評価（入学時期別）

●総科に行って良かった?!

『社会に出てから，「他大学や他学部でなく総合科学部に行って良かった」と感じることが』「たびたびある」人が全体の26.5%，「少しはある」人が52%で，４人に３人強の割で自分の学部選択に満足している。

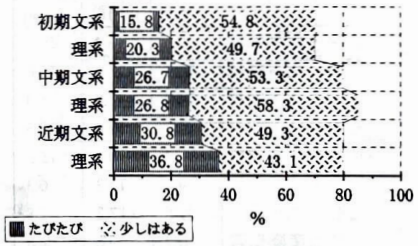

図７．総科に行って良かったと思うこと

年代別に見ると，どの群も文系より理系の方がわずかに多く，入学時期が最近になるにつれて「良かったと思うことがたびたびある」割合が増加している。

●何が良かったのか

上の設問で「たびたびある」「少しはある」と回答した人に，「どのような点か」を自由記述してもらった。662人が記述した758単位の内容を３人の判定者が９個のカテゴリーに分類した。各カテゴリーの回答者に対する言及率を表1.に年代別に示す。

表１．総科に行って良かった点（%）

カテゴリー	全体	初期	中期	近期
１．広い視野・許容性の獲得	32.9	36.0	33.3	30.2
２．幅広い知識の習得	21.3	20.7	22.1	21.2
３．多様な人々との交流	19.5	9.4	20.6	26.7
４．独創性やチャレンジ精神の獲得	15.0	16.7	11.3	16.5
５．「総合科学部」の名称による利点	6.9	5.9	7.8	7.1
６．よい友人・人間関係ができた	5.9	4.9	5.4	7.1
７．よい教官との出会い指導熱心	4.5	4.9	4.4	4.3
８．教育内容・カリキュラムの良さ	4.2	5.9	5.4	2.0
９．その他	4.3	4.5	5.4	3.2

「物事を幅広い視野から見ようとする態度が身についた」などのカテゴリー１への言及率が年代とともに減少し，カテゴリー３の「多様な人々との交流」が増加傾向にあるようだ。

●総科をどう説明していますか

『社会に出てから，「総合科学部とはどんな学部か」と説明を求められることが』「よくある」33.2%と「たまにある」47.8%の計693名に具体的な説明内容の記述を求めた。646名から得られた926個の記述を，上と同様の手続きで９個のカテゴリーに分類した。

回答者の65%が専門分野の枠組み構成の特色に触れ，そのうち14%が学際性や総合性という用語を用いて説明している。初期の入学生には初代学部長の「今堀イズム」に言及したものもある。

自由記述の具体的内容を例示する紙幅がないが，試験的に上記926個の記述内容を「学部に対する好意的肯定的記述」「批判的否定的記述」「どちらとも言えない記述」に分類してみた（図８）。

表2．総科の説明方法

カテゴリー	言及率
1．学際性とコース制以外の教育特色	51.5%
2．コース制という用語を用いた説明	24.0
3．学際性・総合性（今堀イズムへの言及含む）	14.0
4．教養部という用語を用いた説明	13.1
5．小さな総合大学にたとえた説明	8.9
6．構成員の組織や人間関係を伝える説明	5.2
7．総合科学部の名称の由来を説明するもの	3.8
8．「本人次第で何とでもなる学部」など	3.8
9．その他	9.4

説明コメントの学部に対する評価的態度別内訳は図8の通りで，回答者全体の40%弱，記述者の53%が好意的肯定的である。

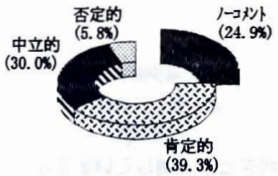

図8．総科を説明するコメントの評価性

●わが子に総科受験をすすめますか

『もし将来，あなたの子どもや身内から，広島大学総合科学部を受験しようかどうかを相談された場合，あなたは受験をすすめますか』という設問への回答は「賛成して受験をすすめる」37.1%に対して「受験はすすめない」6.2%である。「その時にならねばわからない」と「どちらでもない」が合わせて55%を占めている。回答者の現在の社会経済的状況や家族状況によって変動する指標ではあるが，総合科学部評価の1指標と見なして，参考までに図9に出身コース別の賛成・反対率を示してみる。

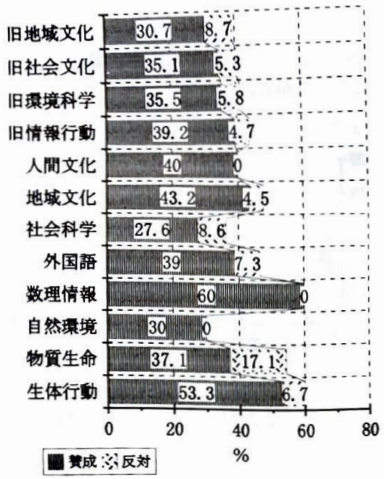

図9．子どもが総科受験を相談したら

●卒業生のライフ・パターン

回答者の卒業以来現時点までの生活歴を，試験的につぎのように分類してみた。

表3．年代別生活パターン（%）

		初期群	中期群	近期群
男性	独身・仕事継続	10.6	36.4	56.3
	結婚・仕事継続	13.1	24.5	11.8
	子誕生仕事継続	74.4	37.8	1.4
	その他	2.0	1.4	30.6
女性	独身・仕事継続	11.1	30.8	73.3
	結婚・仕事継続	4.4	17.3	6.3
	出産・仕事継続	27.8	17.3	2.8
	結婚出産降転職	16.7	9.6	2.8
	出産退職	16.7	11.5	1.1
	結婚退職	22.2	11.5	2.8
	その他	1.1	2.0	10.8

＊協力のお礼と集計分析の状況

上記の他に『職業観』『性役割態度』などの設問に回答していただいた。また，回答票に懇切なご意見や想い出を同封してくださった方，アンケート調査への疑問を述べられた方々をはじめ，ご協力いただいた皆さんにお礼を申し上げます。詳細な分析報告書の作成作業をすすめています。

エッセイ

ひとり探検隊

三　輪　誠一郎（地域文化コース3年）

こんにちは学生の皆さんは暇だなあと感じることがよくありませんか？そんなときには何をして過ごしていますか？家でだらだらするのもいいのですが，そのまま一日が終わってしまうと何となくもったいない感じがします。そこで今日は僕の余暇の過ごし方を紹介したいと思います。

それは探検です。探検といっても，そんなにすごいものではなく，一言で表現すれば，ただウロウロするだけです。具体的なことについて話しましょう。まず移動手段としては自転車か徒歩になります。車や原チャではスピードが速すぎるので，適当ではありません。僕の場合はだいたい自転車で西条をはしり回るのですが，これを僕の専門用語で「流す」といいます。この言葉を厳密に言うと，ただ，ぼんやりと自転車に乗って走るのではなく，走りながら周囲を注意深く観察することを意味します。次に，町を「流し」ながら何を観察するかが問題ですが，これは本来皆さんの自由となります。とはいっても，初心者の方はよく分からないと思うので，入門編を紹介しておきます。

初心者の方は路上観察または町並みの観察から始めると良いでしょう。観察の対象としては，建築物，石造物，看板，人間，樹木，植物，鳥，景色など何でもよくて，とにかく自分がみて楽しめるものです。西条の町は昔ながらの風景がまだまだたくさん見られるし，また，狭い道が多いので気まぐれに進んでいくと思いもよらない所に出たり，迷子になってしまったりと，とても面白いのです。お薦めのスポットは駅周辺の商店街（古い町並みや酒倉があって風情がある）や西条盆地のはずれの方（田舎なので自然がありきれい）などです。しかし，基本的には，自分の行ったことのない場所ならどこでも問題ありませんので，気の向いた方向に行けば良いのです。少しの経験を積めば，独自の分野を開拓することができます。たとえば，僕の場合には，神社や寺の境内を散歩して本堂の造りや狛犬の類型を観察するといった，多少マニアックなこともしています。また，何もすることのない休日をたっぷりと使って東広島を「流し」まくるのも良いのですが，大学で，突然休講になったときには，キャンパス探検をするとよいでしょう。広い広大の建物の中をウロウロすると思わぬ発見があったりします。

さて，

ここですこし注意事項を述べておきたいと思います。まず，めちゃめちゃに自転車をこいでいれば，迷子になる可能性があります。方向感覚と土地勘のある人はいいのですが，方向音痴の人はとりあえず地図を持っていった方が無難です。日が暮れてしまったら大変なことになります。それから，時々人家の庭に入り込んでしまうことがあるので，その時はすぐにもと来た道を引き返しましょう。それから田舎のあたりでは，知らない人でも出会ったらあいさつするというすばらしい習慣が残っている地域もあるので，「流し」ていてあいさつをされたら，きちんと返すとよいでしょう。

以上のことに気をつけて，皆さんも探検してみませんか，きっと新しい発見があると思います。